ごみ問題

般 質

問

般廃棄物最終処分場 整備拡大の考えは?

(自民クラブ)

残容量は、船屋では、容量2万45

対する平成17年度末のそれぞれの

ているところである。

立方メートルが満杯状態となって

処分場の残容量が少なくなること れるとなると、予定より早く最終あらゆる物が最終処分場で処分さ が危ぐされる。 現在、新たな一般廃棄物最終処 (物最終処分場が4施設あるが、 ごみ問題は年々深刻化しつ つある。市内には、一般廃

量2万2260立方メートルのうち7パうち83パーセント、小松では、容

ーセントの残容量となっている。

では、容量1万600立方メートルの一トルのうち52パーセント、丹原

おり、東予では、容量7万立方メ

設されることが望ましいものと考 容量等を踏まえ、西部地区にも建 分場の建設が計画されている。残 どのように考えているの 条市全体として新しく整備する一 場が満杯状態であるため、新しい を検討したい。 に判断し、国・県とも協議しなが め立て廃棄物の排出量等を総合的 の残容量及び市内から発生する埋 般廃棄物最終処分場や、 ているところであるが、今後、西 処分場の建設に向けて準備を進め 現在、船屋一般廃棄物最終処分 適切な廃棄物処理施設の整備 現有施設

用については、 るような方策を検討していきたい。 と、処分場の長期有効利用が図れ に入れ、埋め立て廃棄物の減量化 オマス関連技術の導入なども視野 としてとらえており、今後、バイ 般廃棄物最終処分場の長期使 非常に重要な課題

船屋一般廃棄物最終処分場

医

現在は合併前の2市2町

物最終処分場4施設を管理運営し 屋・東予・丹原・小松の一般廃棄 各施設の埋立て容量と、それに それぞれ保有していた、船 どう考える 産科医療の現状と対策 (リベラル西条)

いる。 いこともあり、医師数が減少して 療事故訴訟が他の診療科に比べ多 きい過酷な勤務であることや、医 も長く、肉体的・精神的負担が大 急呼び出しが多いうえ、拘束時間 問 科医は、深夜の出産など緊 少子化の進行を背景に、

婦人科の充実についてはどのよう 対応、さらには市立周桑病院の産 に考えているのか。 市内の産科医の現状や、今後の



識している。 きる体制の確保が重要であると認 少子化対策を推進するうえ 地域で安心して出産で

れらの医療機関での1か月の出産 受け入れ可能人数は約10人と聞い 開業医の4か所に計59床あり、こ市内の産科病床数は、1病院3

> 業医から紹介されるリスクを有す どうかは判断しがたいが、保護者 約62パーセントであり、 足しているように見受けられるも ており、通常分娩はもとより、 大学から2名の医師の派遣を受け れているものと考えている。 に信頼される環境づくりが求めら もって出産環境が充足しているか の医療機関での出産は、 のの、アンケート結果では、 受け入れ可能人数との比較では充 の出生者数は約75人であり、出 また、市立周桑病院では、 急性期医療についても 年度の1か月平 回答者の 病床数を 市内 愛媛 開

積極的に受け入れている。 る分娩等、

須であると考えている。 医療の現体制を堅持することが必 心の提供を最重要にとらえ、産科域における医療面からの安全と安 何よりも望まれるものであり、こ の大切な命の誕生に際して、当地 次代を担う新しい命の誕生は、

域性や病院規模の面から、市立周 われる。この拠点化において、地 の取り組みが実施されるものと思の関係医局との調整により拠点化 化構想では、近い将来、愛媛大学 である産科・小児科の集約・拠点 厳しい見通しとなっている。 桑病院が拠点となる公算は非常に は不足しており、さらに国の施策 しかし、現状の産科医の絶対数

を守ることが大きな使命であると を堅持し、当市の産科医療の現状 現産科医師体 制

道 路

西之川・土小屋間の見通しは? 西条久万線の改良と (自民クラブ)

置き場の確保はどうなっているか。 なっているか。西之川・土小屋間 の見通しと事業促進のための残土 いるが、県に対する要望はどう行 から18年度で10分の1に激減して の改良事業費が平成12年度 県道西条久万線に対する県

と認識している。 女犬兄の中でも努力しているものしていることから、 県は厳しい財 ントの1億億万円を本路線に投入 予算2億6381万円の内、約42パーセ 82億円から10億円に縮減している 全体の県単独道路改良事業予算が万円になっているが、この間の県540万円から平成18年度には1億11000 こと、平成18年度西条市管内の同 県の西条久万線改良事業予 平成12年度の約10:

の見通しも厳しい環境であるが、 ないが、個別案件として機会ある 要施策の要望としては求めては 項目に限られたため、合併後、 粘り強く要望していきたい。 ごとに要望している。土小屋まで 県に対する重要施策の要望が3 重 17

場所が見つかっていないため、 成18年度で満杯になるが、 残土置場についても、円山は平 適当な 県